

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0591100060		
法人名	(有)バスケの街能代企画		
事業所名	グループホームあにの里		
所在地	秋田県北秋田市阿仁銀山字上新町80-7		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者さんが持つ能力を、生活の中で発揮できるように支援させていただいています。一人で過ごされる時間も大切に仲間と過ごす時間も設け、お互いに協力し合い生活しています。季節ごとの行事や食事会、誕生会を開催し季節を感じたり、お祝いをしたり楽しんで頂けたら・・・と行事を計画しています。一人一人の生活歴、性格、想いを受け止めそれぞれの気持ちに寄り添ったケアが出来るように、スタッフも努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月25日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

隣接の町内も含め、あえて両町内に加盟しており、町内活動に参加している。回覧板の活用はもちろんのこと、11人の近隣住民が非常時には駆けつけ協力してくれる関係にある。道路向かいの阿仁合保育園の園児は、ホームの量の演出で芸を発表してくれたり、散歩途中に立ち寄りたり、ハロウィンではプレゼントを交換する等して交流している。ホーム便りを家族宛てに数か月おきに発行しており、利用者の行事や日常生活での写真が満載。希望する家族には、それぞれの利用者の動画も積極的に発信しており、家族の安心感に繋がっている。地域の関係者と共にチームで取り組み、数多くの看取りの経験を有する。おにぎりが好物の利用者が多く、中でもキリタンボを食すタンポ会は大人気。管理者はとても気さくで、家族はもちろんのこと、スタッフも避難訓練に参加した消防士も、すぐに打ち解ける魅力をもった方である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで理念を作り上げ、利用者さんの意向に寄り添えるようなケアの実践に向け、取り組んでいる。	ホームの運営方針が事務室に掲げられ、ホールにはとても大きな「家族」の文字。全スタッフで数年前に作成した理念がこの「家族」とのこと。利用者からの「ここは大家族だ」との言葉に納得する。以前の理念は文章で表現されていたが、あえて「家族」とした。スタッフが輪番で毎月のホームの目標を作成しており、12月の目標は、手洗い・うがい等、感染症対策に特化した内容。1月の目標もすでに作成されていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の活動に地域の方、運営推進委員、保育園の皆さんに参加してもらいながら、地域の中の施設として交流している。	道路向かいに阿仁合保育園があり、文化祭での発表前にホームを訪れ、ホールの畳の演台で芸を披露してくれたとのこと。散歩途中に立ち寄りたり、ハロウィンではプレゼントを交換する等して交流している。隣接の町内も含め、あえて両町内に加盟しており、町内活動に参加している。回覧板の活用はもちろんのこと、11人の近隣住民が非常時には駆けつけ協力してくれる関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症ケアにあたるスタッフの一員であると自覚し、それぞれ研修等で学ぶ機会を設けている。地域の方からの相談にも随時応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方の中には、利用者さんを良く知る方も居り、体調や状態の変化を気にかけて下さっている。避難訓練には可能な限り参加して頂き、施設の実情把握にも協力頂いている。	コロナ禍で対面での運営推進会議を開催できず、書面での開催であったが、その後もインフルエンザ対応で書面での開催を継続した。1月には、ホームを会場に対面で開催できることを願っている。参加する委員が高齢化しているものの、市役所を退職した方等が新たに委員として協力してくれるとのこと。高齢の一人暮らしの住民が多く、互いに地域の一員として協力し合う傾向の強い地域である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事や運営推進会議の場でも、ありのままのホームの姿を見ていただいている。	市担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センターとは密に情報交換をし、連携している。運営推進会議には、当該事業に知見を有する市職員OBが、委員として複数名参加協力している。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、高齢者虐待等職員間で学ぶ機会を設け身体拘束、虐待の無いようケアに取り組んでいる。	身体拘束の防止及び虐待防止に向けたマニュアルが整備され、毎月身体拘束適正化に向けた委員会が開催され、全スタッフで共有している。身体拘束防止及び虐待防止に向けた研修を定期的開催し、共有されている。	身体拘束の適正化委員会に関する、議事録・委員会名簿・マニュアル等関連書類を1冊に綴じ、いつでも取り出せるよう整備することを期待します。
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について職員間で学ぶ機会を設けている。実際に制度を活用した例はないが、必要時に活用していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に利用者さん、家族さんと面談や見学の機会を設け、不安や疑問を解決し、十分に納得していただいた上で後日、契約している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	スタッフとの日常会話や、電話や手紙等で意見や要望を述べていただいている。ご意見伺い箱の活用も入居時に説明しており、意見や要望には速やかに対応し、改善につなげている。	「グループホームあにの里DAYORI」を家族宛てに数か月おきに発行している。A4版の用紙2枚には利用者の行事や日常生活の写真が満載。希望する家族にはそれぞれの利用者の動画も積極的に発信しており、家族の安心感に繋がっている。コロナ禍では、早速タブレットを導入し、大いに活用。歌番組の好きな利用者の家族から、BS放送を見られるようにしてほしいとの要望があり、翌日にはBSアンテナが設置され、歌番組を現在も堪能している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	運営推進会議の後に、会議の内容を報告すると共に、今後に向けた意見交換をしている。代表者と話し合う機会も度々あり、意見や要望を伝え、対応して対応してもらっている。	有給休暇は積極的に取得してもらうとの方針。前もって休みたい日の希望を取り、勤務表を作成しており、急な要望にも出来る限り対応している。管理者はとても気さくで、家族はもちろんのこと、スタッフも避難訓練に参加した消防士も、すぐに打ち解ける魅力をもった方である。社長は時折訪問しており、利用者やスタッフに声かけしている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を出来るだけ多くし、意見や、情報の交換を積極的に行い、更なるサービスの向上に取り組んでいる。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で、可能な限りの訴えや要望を伺い、不安の解消に努めている。入居の際は面談した職員が出迎え、不安の軽減に努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始まで、家族さんとの面談や電話相談で心情を受け止める努力をしている。入居後も、状態が落ち着かれるまで、連絡を密に取り合っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりと向き合う時間を大切にし、その方の状態に合わせた話題やレク内容を提供し、共に暮らす仲間としての想いを大切にしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの想いを都度、家族さんに連絡し、本人の意向を大切にしながら、入居後も家族と繋がっている事を感じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの人や、店等との関係が途切れないように、入居後もホームや外出先で共に過ごす時間が持てるように努めている。手紙や、電話でやり取りが出来るように支援している。	近くの商店やスーパーまで歩いて買い物を楽しむ方や、馴染みの美容室へ娘さんと外出する方もおり、皆さんほぼ地元の方で、住み慣れた地域のホームで生活している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性を把握し、孤立する方が居ない様に対応している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じ相談を受けたり、街で会った際には声を掛け合い、関係を立ち切らない様な付き合い方をしている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いや願いを聴く機会を設けている。困難な場合は、家族さんから意見を伺う等して対応している。	昔から、ラジオ体操に馴染んできた方は、テレビのラジオ体操に自然に体が反応し、周囲の利用者もまねて、いつの間にか皆が体操をしている。当日は2名の利用者が、皆さんの洗濯物を黙々とたたんでくれた。雑巾縫いが得意な方もおり、とても助かるとのこと。利用者全員の名前を英語の筆記体で書いてくれる方は、自作の作品に英語でサイン。カーテンの開閉が毎日の役割の方や新聞たたみが上手な方等々、それぞれの利用者が何かしら得意な事でホームでの役割をこなしてくれている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バッググランドアセスメントの活用に努め、利用者さんの生活歴を把握した上で、その方に合ったケアへ繋げている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ケアに対するアイデアを家族や関係者からも出していただき、それを反映した介護計画を作成している。	毎月全員の個別ケースカンファレンスを開催し、本人・家族・そしてスタッフ個々の思いや気づきを反映させ、現状の生活を機能低下することなく継続できるようの方針で、介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時に情報交換を行い、改善すべき点について話し合いを持ち、ケアへ活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じながら民生委員の方、運営推進委員の方、近隣の地域住民の協力を得ながら、行事を行ったり、参加したりしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ薬局を持つと共に、本人・家族の希望する所を利用出来るように支援している。	2年程前に、終末期対応をして下さっていた診療所の医師が退職。その後、大学より週2回医師が派遣される他、地域医療を目指す若手の医師も徐々に増えた結果、以前よりも開業日が多くなり、現在は安堵している。地域に1箇所しか薬局がなく、多忙にて、配達には困難であるが、協力関係を築いている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の医師や看護師に相談しながら、健康管理や、医療活用の支援をしている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院関係者に速やかに情報提供をし、利用者さん、家族さんが不安無く治療を受けられるように努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のあり方について家族さんも心配されており、状態を見て特養等の他施設への入所申し込みの支援を行っている。	「入居者が重度化した場合の対応」及び「看取りに関する指針」が整備されている。家族、医師、訪問看護師、ホームとで話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで取り組んでいる。開所より約15年経過し、数多くの看取りの経験を有する。	家族同意書の書式の、簡潔で分かり易い工夫に向け、関係者で話し合うよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、北秋田市消防署の協力の元、全職員が救急救命講習(上級)を受講し、万が一の場合に対応出来る様に、実践力を身に付けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や、地域の方々へは日頃から火災時等の避難協力をお願いしている。避難訓練には地域の皆さんにも協力いただいている。	数年前にホーム地下を流れる水道本管の破裂により、生活出来ない程ホームが水浸しになった際は、消防や地域の協力により、その日の内に向かいの保育園へ避難している。地域の協力体制の賜物である。自慢の床暖房はエアコンに代わり、壁もよく見ると下方を張替えた痕跡。火災だけでなく、水害や土砂災害も想定した避難訓練を新たに取り入れている。東日本大震災で停電した際、スタッフが自宅のガスで調理してくれたとの経験を話してくれた。当時は床暖房だったため、その余熱で暖かく、暖房には困らなかったとのこと。BCP(業務継続計画)については、本社で作成中で、ホームとしてもBCPIについて研修中。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応、記録については利用者さんの誇りやプライバシーに注意を払い、その方に合った対応を心掛けている。	出来ることは何か、やりたい事は何か、人生の先輩として尊重し、声かけし対応している。家が気になる方は、歯科受診の帰りに家を見に出かけ、庭を散歩。スタッフを孫や娘や婿だという利用者には、あえて優しく「おばあちゃん！」と応じている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容については、利用者さんや家族さんが希望されている店で出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や気分にもよるが、準備や片付けを利用者さんと職員と一緒に、行うようにしている。	スタッフが持ち回りで調理を担当している。その日の冷蔵庫の中身と相談しながら、献立を考えるため、毎回違う味付けを楽しむことができる。当日はクリスマスであり、クリスマスらしいメニューの昼食は、色合いも味も申し分なし。午後のおやつは手作りのクリスマスケーキとあって、配膳台には人数分のケーキが並んでいた。前日のイブには、お店を営む家族からケーキが届く。おにぎりが好物の利用者が多く、中でもキリタンポを食すタンポ会は大人気。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握した上で、必要とされる分量を提供するように心掛けている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の状態や能力に応じた口腔ケアを実施している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを掴み、オムツばかりに頼るのではなく、トイレで気持ち良く排泄出来るように支援している。	夜間のみポータブルトイレを使用している方が2名いるが、ポータブルトイレに頼りっぱなしでなく、トイレでの排泄を優先している。チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握することで、排泄の自立にむけた支援を心がけている。チェック表をもとに個別のデータを積み上げている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解した上で、予防の為に飲食物の工夫や、運動を取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	男女別の入浴日は決めているが、体調や状況に応じて、いつでも入浴出来る様に努めている。	入浴したがない場合は、別の用事で誘い、湯舟に浸かるといつのまにかゆったりと温まっている。夏場は汗をかくので清潔保持に心がけている。下着等の汚れにはいつも気遣っており、すぐに洗体し気持ちよく生活できるよう配慮している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その時々体調に合わせて休息や睡眠が取れるように支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬について理解すると共に、内服後の状況の変化についても細やかに記録に残している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、利用者さんの好み、能力に応じた活動が出来るように支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内散歩や、ホーム前で景色を見ながら季節を感じていただいている。季節の行事には、皆でドライブがてら出掛け、買い物や外食を楽しんでいる。	道路向かいの保育園に太い桜並木があり、春にはホーム玄関前にテーブルと椅子を準備し、花見を楽しめる。公用車は1台であるが、スタッフの車を数台借り上げ、全員でドライブ。合川・三木田地区の翠雲(すいうん)公園で2,500株ものアジサイを堪能するなど、年中あちこちに出かけ楽しんでいる。どうしても行きたくないという方には無理強いしないように対応している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん一人一人の能力を見極め、お金の所持や使用を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の各々の場所に季節の植物を飾ったり、切り絵や貼り絵、写真を展示している。空間は、利用者さんが快適に過ごすことができるように配慮している。	高台に位置するホームからは、遠くに連なる山々、玄関からは大木の桜並木が見える。交通量は少なくのどかな環境にある。掃除が行き届き、壁は白を基調としており、とても明るく感じられる。ホールの畳の小上がりは保育園児のステージに早変わりする。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ポーチに設置したテーブル・ベンチ、ホールや各箇所にあるソファ等で過ごされている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設見学の際に、ホーム内や居室の構造を見て頂き、自宅で使い慣れた家具、必要物品を持ち込まれる様にアドバイスしている。	自慢の床暖房で、長期間に亘り暖かかったが、水道管本管の破裂により、新しい床に張替えられ、各居室にエアコンが配置されている。ベッドは持ち込みであるが、レンタルを利用される方もいる。テレビを持ち込んでいる方は半数。日中は皆さんホールで過ごされている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置しており、利用者さんの目線で、安全に生活出来る様に配慮している。		